

結婚相談所 20代の心つかむ

結婚相談所を利用する20代が増えている。新型コロナウイルス禍を機に、出会いの場がより少なくなった東北など地方での伸びが目立つ。手軽に婚活ができるマッチングアプリが主流となる中、具体的な助言やサポートが得られる結婚相談所へのニーズが高まりつつある。
(柏葉竜)

コロナ禍で出会い減

助言やサポート充実

仙台市の会社員男性(27)は5月、市内の結婚相手紹介サービス「マリッジ」に利用登録した。「同僚や友人との飲み会が減って、出会う機会を失った。マッチングアプリを試したが、知り合った女性から真剣味を感じなかった」と登録の理由を語る。

必要な費用は入会金とサポート料計33万円と、月会費1万5000円。プロフィールなどから気に入った女性と月1、2人のペースでお見合いを重ねる。これまで3人とデートにいき着けたが、まだ本格的な交際にはつながっていない。

この男性は女性との交際経験がなく、専任スタッフからアドバイスを受けながら登録を探す。「登録している女性

地方で増加顕著 東北5.6倍



は豊元も目的もはっきりしており、サービスには満足。このまま活動を続け、良い出会いを見つけた」と笑顔を見せる。

「みやマリ！」は取り込みに腐心

ハードル下がる

結婚相談所大手「IBJ」(東京)によると、同社が提供する顧客データベースなどのプラットフォームを利用する加盟相談所は全国で約4000社。直営も含めた相談所の登録者は2022年末時点で約8万1000人に上り、コロナ禍前の18年末より約1万8000人増えた。

年代別では男女とも全ての年代で増加。中でも20代の増加が顕著で、男性2・3倍、女性1・7倍。さらに20代を全国11地域別で見ると、東北は男女合わせて5・6倍で、甲信越の6・3倍に次いで高かった。

IBJの担当者は「マッチングアプリが普及し、若い世代の婚活への心理的なハードルが下がった。特に出会いの機会が少ない地方で、真剣な出会いを求めて結婚相談所を利用する人が増えている」と分析する。

「交際の仕方を一から教えてほしい」という利用者が最近多い」と話すのは、マリッジの前田光子マネジャー。内

閣府の21年度の調査によると、20～39歳の独身者の交際経験の数はセロが男性37・6%、女性24・1%でともに最多。結婚相談所はスタッフが積極的に助言する仲人的な役割も支持につながっている。

登録料を半額に

一方、20代の取り込みに腐心する施設もある。宮城県が21年に開設した「みやぎ結婚支援センター(みやマリ)」は、人工知能(AI)によるマッチングシステムで出会いの機会を提案する。相談業務はメールや電話が中心で、結婚相談所ほど手厚くはない。登録者は今年10月末時点で約2600人と当初の目標の「24年度に1000人」を上回る一方、全体に占める20代の割合は1割程度と伸び悩む。

みやマリ！は9月、登録料や2年後の更新料各1万1000円を20代に限り半額にした。インスタグラムでの情報発信にも力を入れる。みやマリ！開設の主な狙いは少子化対策。県子育て社会推進課の目塚穂子課長補佐は「将来子どもが欲しい人は、若いうちから結婚を意識して活動してほしい」と話す。